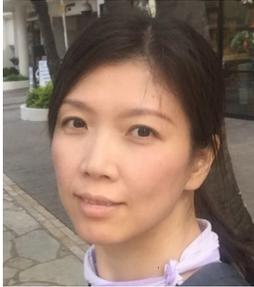


揺らぐ自由貿易が多国籍企業の海外進出と グローバル・サプライチェーンの構築に与える影響



経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科 経営学専攻
准教授

連 宜萍
LIEN, Yiping

SDGs 関連項目



● 研究内容

アジア太平洋地域では、自由貿易協定(FTA)や経済連携協定(EPA)の交渉が盛んになり、調印および発効の数が増加し、貿易と投資の自由化と円滑化が推進されてきた。たとえば、2016年にアメリカや日本をはじめとする12か国がTPP(環太平洋パートナーシップ協定)を調印し、加盟国間で関税撤廃やサービス貿易の推進、高水準の通商ルールが構築されている。また、2020年に日本、中国、ASEAN(東南アジア諸国連合)などの15か国がRCEP(地域包括的経済連携)を調印し、世界での影響力を高めている。貿易や投資の自由化が多国籍企業の海外進出を促し、中間製品を供給する上流企業などの国際化を牽引するまで、グローバル・サプライチェーンは網の目のように世界で張り巡らされている。しかし、2017年にアメリカがTPP離脱を宣言した。その後、2018年に米中間の貿易摩擦が激化した。さらに、米中貿易摩擦が長期化しコロナ禍が収束しない2020年にRCEPが調印されたが、先行きに不透明感が増す。これまで推進されてきた自由貿易が揺らいでいる。

自由貿易の展開が多国籍企業の海外進出とサプライチェーン構築の効率化を促すものの、自由貿易の揺らぎが多国籍企業の投資行動とグローバル・サプライチェーンにどのような影響を及ぼしているのか。低関税や低製造コストは依然として多国籍企業の立地選択要因なのか。同じサプライチェーンにおいて一企業の行動変更が他企業にどのような影響をどの程度与えたか。これらの疑問の答えを探るために、私は繊維・アパレル産業を事例に取り上げ研究を進めている。不確実性が高まっている現代において多国籍企業の意思決定に示唆を提示したいと考えている。

● 想定パートナー

製造業、小売業、海外進出の日系企業等

● 応用分野

海外進出のための情報提供

現地企業とのビジネスアライアンス等の調査分析